

応用生態工学会ニュースレター
Ecology and Civil Engineering Society (ECESJ)
2005 年 (平成 17 年) 7 月 20 日 (水) 発行

No.30

〔発行所〕 応用生態工学会事務局 〒102-0083 東京都千代田区麹町4-5第7麹町ビル25号室

TEL:03-5216-8401 FAX:03-5216-8520 E-mail: see@blue.ocn.ne.jp HP:http://www.ecesj.com/

〔発行者〕 応用生態工学会 (編集責任者: 幹事長 角野康郎, 事務局長 島崎由美)

Contents

1 はじめに.....	1
1) 次期役員(会長・副会長)候補の届出受付中	
2) 第9回大会開催案内!	
3) 楠田哲也教授が紫綬褒章受賞!	
4) 29号記事中の間違いのお詫び	
2 大会実行委員会報告.....	1
3 第9回大会開催案内.....	2
4 いろいろな行事・募集のお知らせ.....	5
1) 第2回中国現地ワークショップ in 山口	
2) 第4回北陸現地ワークショップ in 金沢	
3)【後援行事】シンポジウム「鳥類を蘇らせる方法」	
4)【後援行事】第8回水源生態研究セミナー	
5)【共催行事】土砂管理とダムに関する国際シンポジウム	
6)【後援予定行事】淡水魚保全シンポジウム 岐阜大会	
7)【お知らせ】第3回コウホリ未来・国際かいぎ	
8)【募集】平成18年度(財)日本科学協会研究助成	
5 寄稿(事例紹介).....	6
「宇奈月ダム(うなづき湖)に野猿移動用吊り橋を設置 一野猿の棲息域をダム湖出現前に近づけるために」	
6 新刊紹介.....	7
7 NPO法人発足.....	8
8 事務局より.....	8
ニュースレターNo. 29 正誤表.....	8

1 はじめに

1) 次期役員(会長・副会長)候補の届出受付中

前回のニュースレターでお知らせしましたが、今年度は役員改選期に当たります。現在(7月1日～7月31日)は＜次期役員候補選考制度＞にしたがい、会長(1名)、副会長(3名)の候補者の届出の受付中です。詳しくはニュースレター29号あるいは学会ホームページをご覧ください。届出用紙もホー

ムページに掲載してありますが、ホームページからのご利用ができない方は、事務局にご連絡いただければ用紙をFAXいたします。

2) 第9回大会開催案内!

2005年度の第9回大会の開催案内を2ページから掲載しました。多数の研究発表、参加をお願いいたします。

〔開催日〕 2005(平成17)年9月30日(金)～
10月2日(日)

〔会場〕 東京都千代田区北の丸公園・科学技術館サイエンスホール

3) 楠田哲也教授が紫綬褒章受賞!

学会前理事で九州大学大学院工学研究院環境都市部門の楠田教授が平成17年度春の褒章に際し、紫綬褒章を受章されました。おめでとうございます。8月2日には記念講演会「環境学を目指して」と祝賀会が博多で開催されます。

4) 29号記事中の間違いのお詫び

前回の29号の記事中に数箇所の間違いがありました。5月14日開催の理事会後に、急いで発行することを考え、理事会での検討・審議内容を修正すれば良いように用意しておいた原稿のチェックが足りませんでした。事務局長のミスです。申し訳ありませんでした。学会ホームページには正誤表と修正後のPDFファイルを掲示してありますが、本号の最後に正誤表を掲載しました。

2 大会実行委員会報告

2005年7月5日(火)に本年度の第9回大会の実行委員会を開催しました。5月14日の第28回理事会での承認事項と合わせ、昨年度までの実施に際しての反省や寄せられた意見をもとに、主な方針や実行委員としての協力会員の役割などを検討しました。

会場: 麹町会議室(麹町4丁目)

出席: 角野幹事長, 井上大会実行委員長(建設環境研究所), 今村(日本工営), 遠藤(建設技術研究所), 沖津(応用

地質), 實 (I N A), 西 (国土環境),
事務局島崎

(1) 主な係の担当について

- ・本年の大会は前年と同じく東京での開催であり, 各係の業務内容を把握していることから, 主要な賛助会員各社の実行委員は, 前年と同様の係を担当する.
- ・係間の連絡体制を明示しておき, 大会の運営に支障が無いように心がける.
- ・不足の人数については昨年と同様, 賛助会員各社に協力をお願いする.

(2) ポスター発表について

- ・アピールタイムは本年も設ける. 時間配分は発表申し込みの数によって決定する.
- ・アピールタイムにおけるパワーポイントの使用など, 連絡が不足していたという意見が出ているので, 発表申込者へはより密な連絡を心がける.
- ・昨年のポスター発表では, 発表者自身が他の発表を見る機会が無かったとの意見があったため, 奇数・偶数に分けて, 前半・後半のコアタイムを

設ける.

- ・昨年は発表数が多く, 会場を直前に 2 つに分けた. 本年は 6 階の会議室を 2 箇所予約する.

(3) 発表の分類について

- ・これまで, プログラムを組むにあたって発表申し込みの際の概要およびキーワードを参考にしていたが, 事例報告, 研究報告などの分類も事前にしてもらってはどうか.
- ・発表申し込みの数および内容によって, それらをまとめたセッションを設けることも考える.

(4) 賞の審査について

- ・昨年は幹事長および実行委員長が中心になって, 口頭発表については各セッション担当者等, ポスター発表については理事・幹事等で審査を行った. 本年も同様の方法で, 事前に審査委員をお願いする.

(5) 情報の共有と手引き

- ・実行委員各係りの役割分担の内容を明確にし, あいまいな部分を無くすよう, メーリングリストを作成し, 準備にむけて情報を共有する.

3 第 9 回大会開催案内

2005 年 (平成 17 年) 9 月 30 日 (金) ~10 月 2 日 (日)

(第 9 回総会・第 9 回研究発表会・公開シンポジウム・ミニシンポジウム)

2005 年 (平成 17 年) 9 月 30 日 (金) ~10 月 2 日 (日), 第 9 回大会 (第 9 回総会・第 9 回研究発表会・公開シンポジウム・ミニシンポジウム) を開催します.

総会に合わせて開催する研究発表会への講演の募集受付を始めます. 研究発表会では, 研究成果と共に, 現場で抱えている課題や問題提起, プロジェクト提案等を自由に発表できます. 会員の皆様の研究発表参加をお待ちしております.

9 月 30 日 (金) には, 香港大学 デビッド・ダジョン教授をお招きして, 日本の研究者・実務者と議論していただく公開シンポジウム『比較応用生態工学 一生態系・風土そして文化 (仮題)』を開催します (同時通訳あり). これは, 応用生態工学会が国際交流の一環として開催するものですが, 昨年までのテーマであった国際的ネットワーク構築を目的としたシンポジウムをひとまず終了し, 本年はできるだけ欧米との相違を浮き彫りにし, アジア・モンスーン地域の特長をテーマにした内容にする予定です. このシンポジウムは河川整備基金の助成を受けて一般にも公開します.

また, 学会誌編集委員会主催のミニシンポジウム「応用生態工学研究の作法—生態学と土木工学の習慣を乗り越えて」を, 10 月 2 日のポスター発表終了後に開催します. 本シンポジウムは, 生態学と土木工学の習慣を乗り越え, 応用生態工学独自の研究論文の書き方, データの取り扱い方, 研究方法のあり方などを議論し, 統一を試みようとするものです. これにより, 応用生態工学会の特に若手研究者の研究論文作成がスムーズとなり学会誌への投稿が促進されることを期待しています. こちらにも多くのご参加を御願いたします.

(1) 概要

【応用生態工学会第 9 回大会スケジュール (予定)】

- ・第 9 回総会 : 9 月 30 日 (金) 10:30 ~ 12:00
 - ・公開シンポジウム : 9 月 30 日 (金) 13:00 ~ 17:20
『比較応用生態工学 一生態系・風土そして文化 (仮題)』
 - ・第 9 回研究発表会 : 10 月 1 日 (土) 9:00 ~ 15:00 「口頭発表」
10 月 1 日 (土) 15:30 ~ 18:00 「ポスター発表」
10 月 2 日 (日) 9:00 ~ 12:00 「口頭発表」
 - ・ミニシンポジウム : 10 月 1 日 (土) 18:30 ~ 20:00
「応用生態工学研究の作法—生態学と土木工学の習慣を乗り越えて」
 - ・懇親会 : 9 月 30 日 (金) 17:30 ~ 19:00
- 上記時間スケジュールは、変更することがありますのでお気を付け下さい。詳細なスケジュールは 8 月に送付する大会案内でご案内します。—

【会場】

東京北の丸公園科学技術館サイエンスホール (定員 410 名)
〒102-0091 東京都千代田区北の丸公園 2-1 TEL. 03-3212-3939
(東京メトロ東西線・半蔵門線または都営新宿線「九段下」駅下車徒歩 7 分)

(2) 研究発表募集！

応用生態工学に関わる研究報告、研究プロジェクト提案などの一般研究発表の受付を開始します。発表方法は、「ポスター発表」と「口頭発表」とします。下記要領に基づき応募して下さい。

〔1〕研究発表内容

研究発表に応募できる講演内容は、応用生態工学に関する調査報告、研究報告、事例報告、研究プロジェクト提案および自由課題です。当該発表の内容が、現場のさまざまな事業・活動にどのように応用できる知見であるかに触れていただければ、研究・調査報告が基礎的内容であってもかまいません。

〔2〕発表方法

応募に当たっては、「口頭発表」か「ポスター発表」のいずれを希望するか明記して下さい。応募状況によっては、実行委員会でご変更をお願いする場合があります。

なお、ポスター発表の場合は、主会場で短時間 (2~3 分程度) の紹介をしていただき、その後ポスター発表会場 (会議室) で発表していただく予定です。

〔3〕発表時間

口頭発表の発表時間は、1 課題当たり 15 分 (発表 12 分、討論 3 分) 程度で、申込数により決定します。

〔4〕研究発表申込 (8 月 17 日 (水) まで)

研究発表を申し込まれる方は、A 4 版用紙 1 枚に、下記事項を記入の上、事務局まで郵便、FAX、または E-mail でお送りください。後日事務局より受付および「口頭発表」か「ポスター発表」の確認連絡をします。

——申込記入事項—— (A 4 版 1 枚)

- ①発表者名および連名者名と各々の所属 (会員番号：連名者が非会員である場合、番号は不要)
- ②研究発表題目
- ③連絡先 (〒, 住所, 氏名, TEL, FAX, E-mail)
- ④研究発表概要 (和文 200 字程度)
- ⑤「ポスター発表」「口頭発表」の希望
- ⑥事例報告、研究報告、その他 の別
- ⑦キーワード (対象地域・対象生物を含め 5 つ程度)

〔対象地域の例〕河川、汽水域、湖沼、海域、森林、水田、畑地、道路、都市、農村、等

〔対象生物の例〕生態系, 陸上植物, 陸上動物, 水生植物, 底生動物, 鳥類, 魚類, 等

〔5〕研究発表要旨原稿の提出 (9 月 9 日 (金) まで)

研究発表者 (口頭発表及びポスター発表いずれも同じ) は, 研究発表要旨原稿 (A 4 版 4 枚以内) を期日までに事務局へ提出. 原稿は下記の要領に従って作成. なお, ポスター発表については, ポスター作成要領および関連スケジュールを後日連絡します.

—研究発表要旨原稿作成要領—

- ・ A 4 版縦, 4 枚以内
- ・ 左右 15mm 以上, 上下 18mm 以上余白
- ・ 横一段組み, 中央に「講演題目」を和文にて, 14 ポイント程度の文字, 2 行以内で記入
- ・ 題目の下 1 行空け右寄せで「講演者名, 連名者名, 各々の所属」を, 12 ポイント程度の文字で記入
- ・ 本文は, 10.5 ポイント・明朝
- ・ 原稿はそのまま印刷できるようプリントし, 図表等を張り付けたものを 1 部提出. メールで送付の場合は MS-Word のファイルまたは PDF ファイルの添付で御願います. 印刷は白黒です.

〔6〕研究発表者資格

研究発表者は, 応用生態工学会の正会員, 学生会員, および賛助会員法人に所属する個人. なお, 連名者については会員・非会員を問いません. 但し, 研究発表者が学生の場合, 連名者に会員がいれば可とします.

〔7〕発表賞

ポスター発表, 口頭発表のそれぞれを対象とします. 選考は大会実行委員会で行い, ポスター発表についての発表賞の表彰式は 10 月 2 日の研究発表終了後に発表する予定です. 口頭発表についての発表賞は 11 月発行予定のニュースレターでお知らせします.

(3) 参加料

●研究発表会参加料 (ミニシンポジウムを含む)

正会員・賛助会員	6,000 円
学生会員	3,000 円
非会員	10,000 円
学生非会員	4,000 円

●懇親会参加料 (一律) : 3,000 円

注 1) 9 月 30 日総会のみ出席する正会員は, 無料.

注 2) 9 月 30 日公開シンポジウムは無料.

注 3) 研究発表会参加料には, 当日配布する講演要旨集費用を含む. 但し, 講演要旨集のみ入手希望の会員には, 2,000 円で販売する.

注 4) 合計参加料は, 参加者名を明記の上, 下記指定口座に振り込む.

注 5) 交通手段及び宿泊関係は各自で手配.

(4) 受付期限

- 1) 第 9 回研究発表会・研究発表申込受付期限 : 2005 年 8 月 17 日 (水) 消印有効
- 2) 第 9 回研究発表会・研究発表要旨原稿提出期限 : 2005 年 9 月 9 日 (金) 消印有効
- 3) 第 9 回総会・研究発表会一般参加申込受付期限 : 2005 年 9 月 22 日 (木) 消印有効
- 4) 公開シンポジウム(9/30)参加申込 (無料) 受付期限 : 2005 年 9 月 22 日 (木) 消印有効

(8 月発行予定の大会案内等で詳細なスケジュール等をお知らせするとともに, 一般参加申込み用紙を同封いたしますが, 一般参加の申込みの受付もすでに開始していますので, E-mail で連絡いただくか, ホームページから一般参加申込み用紙をダウンロードして F A X してください.)

(5) 申込み及び問い合わせ先

応用生態工学会事務局

〒102-0083 東京都千代田区麹町 4-5 第 7 麹町ビル 25 号室

TEL. 03-5216-8401

FAX. 03-5216-8520

E-mail : see@blue.ocn.ne.jp

【参加料振込先】	銀行口座	(銀行支店名)	東京三菱銀行麹町支店
		(口座名義)	応用生態工学会 (オウノトリイコカヅカイ)
		(口座番号)	普通 1 3 0 2 9 2 0
	郵便振替口座	(口座名義)	応用生態工学会
		(口座番号)	0 0 1 4 0 - 7 - 4 0 4 2 7 5

4 いろいろな行事・募集のお知らせ

1) 第 2 回中国現地ワークショップ in 山口

前回のニュースレターに案内を同封しましたが、8 月 26 日・27 日に山口市および樫野(ふしの)川流域で現地ワークショップを開催します。

自然再生推進法に基づく協議会が設置されている樫野川河口域・干潟の再生、維持や海と森や河川の関係をテーマにしたワークショップです。

会場にはまだ余裕があります。ぜひお誘い合わせのうえご参加ください。

お問合せは学会事務局へ。

2) 第 4 回北陸現地ワークショップ in 金沢

チラシと参加申込書は次回大会案内を送付する際にお届けいたしますが、11 月 11 日(金)・12 日(土)に金沢市観光会館およびその周辺でワークショップおよび現地見学会を実施いたします。今回のテーマは「加賀の風土 水と生き物を考える」で地形、生き物、地下水、湧水を切り口とした内容の講演を盛り込んでいます。スケジュールに入れておいていただきますようお願いいたします。

3) 【後援行事】シンポジウム「鳥類を蘇らせる方法」

兵庫県立人と自然の博物館で、現在開催されている企画展「コウノトリの野生復帰と自然再生」のサテライトシンポジウムが開催されます。現在絶滅の危機に瀕している鳥類や絶滅の淵から復活をとげた鳥などの保全に直接かかわっている、第一線の研究者たちに直接話題提供いただき、保全方策についての総合的な討論をしようという企画です。

主催：兵庫県立人と自然の博物館

日時：2005 年 8 月 28 日(日) 10:00-16:00

場所：上記博物館ホロンピアホール

その他：無料(ただし、博物館入館料 200 円が必要)・要申し込み

申込先：兵庫県立人と自然の博物館

生涯学習事業室

TEL 079-559-2003 FAX 079-559-2033

e-mail : seminar@hitohaku.jp

詳細は上記博物館のホームページをご覧ください。

4) 【後援行事】第 8 回水源地生態研究セミナー

ダムおよびその周辺を含む水源地域の生態研究促進のためのセミナーです。チラシと参加申込書は、次回大会案内を送付する際にお届けします。

主催：財団法人ダム水源地環境整備センター

日時：平成 17 年 9 月 29 日(木) 午後

場所：星陵会館(千代田区永田町)

問合・申込先：ダム水源地環境整備センター

研究 3 部 TEL 03-3263-9945

5) 【共催行事】土砂管理とダムに関する国際シンポジウム

上流流域から河口周辺の海岸地域に至る流域全体として取り組む必要のある「土砂管理とダム」を主テーマとしてシンポジウムおよび現地見学会が開催されます。

主催：土砂管理とダムに関する国際シンポジウム組織委員会

開催日程：2005 年 10 月 24 日(月)～29(土)

10/25-26 シンポジウム(東京電力：「電気の史料館」ミュージアムホール)

10/27-29 美和ダム、佐久間ダム、天竜川河口等現地見学

問合せ先：「土砂管理とダムに関する国際シンポジウム」事務局

所在地：(社)日本大ダム会議内

TEL 03-3459-0946, FAX 03-3459-0948

6) 【後援予定行事】淡水魚保全シンポジウム 岐阜大会

もともと里川の魚というべき雑魚たちが、絶滅の危機に瀕しています。身近な水辺の現状把握と保全について幅広い層の人々の関心を高めるため「里川の魚たちの現状と保全：守るべき身近な水辺環境」をテーマにシンポジウムが開催されます。

日時：平成 17 年 11 月 18 日（金）13:00～

19 日（土）12:00

場所：大垣市情報工房

（岐阜県大垣市小野町 4-35-10）

主催：淡水魚保全研究会・岐阜県

定員：400 名（先着順）

参加費：無料

問合せ・申込先：岐阜県科学技術振興センター

〒509-0108 岐阜県各務原市須衛町 4-179-1

TEL：0583-79-2257 FAX：0583-79-2258

7) 【お知らせ】第 3 回コウノトリ未来・国際かいぎ

当学会でも水田環境の研究（平成 12 年度奨励研究）やシンポジウムの開催などで応援してきた豊岡市のコウノトリが、ついに今秋試験放鳥されることになりました。基調講演会、世界各国からのリレーメッセージ、放鳥式典、分科会などが予定されています。

テーマ：「人と自然が共生する持続可能な地域づくり」

主催：兵庫県、豊岡市

開催日：平成 17 年 9 月 24 日（土）～25 日（日）

開催場所：豊岡市民会館文化ホールほか

問合せ先：豊岡市役所コウノトリ共生課

TEL 0796-23-1111

8) 【募集】平成 18 年度（財）日本科学協会研究助成

人文科学、社会科学および自然科学、またはそれらの境界領域に関する研究で、単年度内に完了し、成果を取りまとめられる研究に対する助成の募集があります。問合せ先は下記の通りです。学会の HP にもこのような助成の案内のページを作成しましたので、ご利用下さい。

財団法人日本科学協会 笹川科学研究助成係

TEL 03-6229-5365 FAX 03-6229-5369

E-mail:jss@silver.ocn.ne.jp

URL:http://www.jss.or.jp

5 寄稿（事例紹介）

「宇奈月ダム（うなづき湖）に野猿移動用吊り橋を設置—野猿の棲息域をダム湖出現前に近づけるために」

国土交通省北陸地方整備局

黒部河川事務所ダム課長 久保昌之

宇奈月ダムは、「黒部峡谷・トロツコ電車」として有名な富山県の東部を流れる黒部川に、洪水調節、水道用水と発電を目的として、富山県下新川郡宇奈月町に建設され、平成 13 年 4 月から管理移行したダムである。

ダム湖内の水没地には、元々既存の吊り橋があり、野猿は、その橋を左右岸への移動用として利用していた。ダム建設によりその多くは、付け替えを行なったが、一部の吊り橋は付け替えを行わず、ダム完成後、野猿等の環境調査を行い必要に応じ、付け替えを行うこととしていた。

黒部川流域には、昔から野猿が棲息しており、近年、黒部川流域も他流域と同様に野猿が餌を求め、人里まで下りてきて農作物などを荒らす被害が発生している。

宇奈月ダム周辺には、概ね 5 群の群れの棲息が推定され、そのうちダム湖周辺を遊動域としている 3 群の群れについて、ダム建設中から追跡調査を行ってきた。毎年、遊動域が下流へ移動する傾向が見られ、その結果、ダム湛水から 5 年が経過した現在は、2 群がダム周辺に留まり、1 群は大きく下流に遊動域を移動していることを確認している。

これまでの調査解析には、ニホンザルの専門家である富山県立雄峰高校の赤座久明教諭の協力を得て行っている。

ダム湖周辺の 3 群の群れの遊動域をダム湖出現前の状態に近づけるには、付け替え対象としなかった電力会社の吊り橋地点に「野猿移動用吊り橋」を新たに設置することが有効な対策であると判断し、同教諭の協力を得て設計施工を行い、平成 17 年 2 月に完成した。

<構造諸元>

吊り橋延長：L=136m（ロープ長）

幅員：1.0m（歩廊部 0.33m） 水面からの高さ：17～21m（常時満水位 245m より）

<建設費> 約 27 百万円

<工期> 平成 15 年 10 月 16 日

～平成 17 年 2 月 7 日

野猿吊り橋完成状況→
(上流より下流望む)



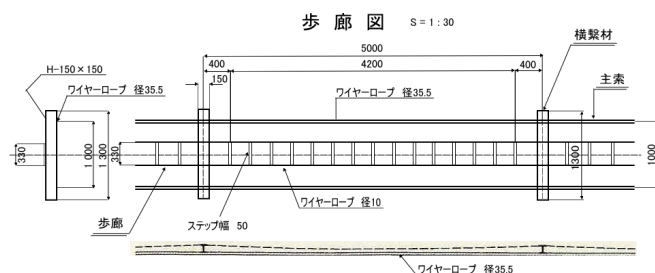
←野猿吊り橋完成状況
(左岸より右岸望む)

野猿専用吊り橋の構造は、コストダウン等を考慮し、以下の特徴を有している。

- ・ 風で揺れることを容認し、耐風索を設置しない構造としたため、橋長(ロープ長)を約 136mに短縮出来た。
- ・ 歩廊を梯子構造としたため、雪がほとんど積もらず、雪荷重等を低減出来た。
- ・ 野猿専用の吊り橋であること等を考慮し、ロープ等の安全率を 3.0→2.0 に低減した。

また、野猿への配慮として以下のような構造としている。

- ・ サグ(垂距) $f = 4.0\text{m}$ と小さくし、ケーブル張力を増大させ鉛直の揺れを少なくした。
- ・ 野猿はロープ等に掴まって行動することが多く、歩廊は必要ないとの考えもあるが、不安なく利用できるように 30cm 程度の間隔材(梯子)を有する歩廊構造とした。
- ・ 主索間隔 1.0m の間に幅 33cm の歩廊(水平梯子)を設置、この主索に 5.0m 間隔で横繫材を設けて、橋長 136m を渡る際に、野猿が横繫材上で休むことも出来るようにした。
- ・ また、将来、必要に応じて猛禽類の進入防止施設が、設置可能な構造とした。



上記の他、吊り橋設置以外の対策として、平成 14 年度、平成 15 年度にアキグミの移植(200 本)及び播種を実施し、餌場の創出に努めている。平成 16 年度の調査では、野猿が食した痕跡を確認している。

CCTVカメラ 解析結果
ニホンザル「野猿吊り橋」利用状況

撮影日	撮影時間	頭数	移動方向
2月17日	13:34~13:42	5	左岸→右岸
2月18日	16:09~17:06	20	右岸→左岸
2月19日	8:34~11:50	1	右岸→左岸
3月7日	16:30~16:40	2	左岸→右岸
3月8日	8:37~ 8:39	2	右岸→左岸
	13:08~13:10	1	左岸→右岸
	15:52	1	左岸→右岸

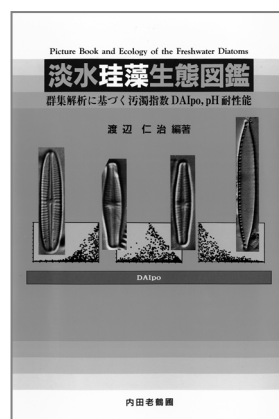
吊り橋の利用状況については、設置直後の 2 月 3 日~3 月 18 日間、ダム湖監視用 CCTVカメラのデータを解析したところ、5 日間で 32 匹、2 月 18 日には一度に 20 匹の渡りが確認された。

雪解けを待ち 5 月 17 日に報道関係者に公開したところ、その反響が大きく全国放送のテレビ番組で報道される結果となった。

今後も、野猿の移動追跡調査(テレメトリー調査)及びセンサー内蔵カメラ等による吊り橋の利用状況調査を継続するとともに、野猿の下流域への移動抑制効果の把握に努めることとしている。

6 新刊紹介

「淡水珪藻生態図鑑 一群集解析に基づく汚濁指数 DAIpo, pH 耐性能」 渡辺仁治 編著



珪藻の生態に焦点を絞って考えてみると、膨大な種数に分化した種が、海から湖、川から小さな水たまりにまで、ありとあらゆる水域へ適応してそれぞれの環境に対して独自の群集を形成する生物だけに、環境と生物生存のあり方

を研究するには、うってつけの生物といえよう。(中略) 本書は、著者らが日本のみならず、世界の各地から得たおよそ 1,500 の淡水産付着珪藻群集のサンプルに基づいて生態情報を処理検討し、

その結果をまとめて将来の研究に資することを目的としたものである。(中略) 独自の統一条件下での試料の採集と、生態情報の新しい処理解析法は、生態情報の妥当性を期しての方策である。この方策と情報が、読者の方々の新しい研究に何らかのお役に立つことができれば、筆者一同望外の喜びである。(序文より：事務局)

【出版社】内田老鶴圃

【価 格】本体 33,000 円＋消費税

【サイズ】A 4 判 総論 100 頁，写真編 637 頁

【ISBN】4-7536-4047-7

7 NPO 法人発足

応用生態工学会とは別の組織として、「NPO 法人応用生態工学会研究会」の設立が 2005 年 6 月 23 日付けで内閣府の認証を受けました。その後、7 月 7 日に登記申請が済みしましたのでこの場を借りてお知らせいたします。このニュースレターがお手元に届く頃には、登記の手続きが完了し内閣府への届けも済んでいる予定です。2004 年 6 月 12 日開催の第 25 回理事会で、応用生態工学会のネットワークを利用することが了解されている（ニュースレター No. 26 参照）ので、本ニュースレターでお知らせするとともに、当面の間、学会ホームページの一部に NPO 法人の紹介をさせていただく予定です。設立趣旨および定款についてはそのホームページに掲載いたしますが、応用生態工学会と現場を繋ぐ部分で役割を担えればと考えています。具体的には、現場の技術者からの応用生態工学会誌への投稿を促進、援助するような活動やしきみ作りも予定しています。

この NPO 法人についてのお問合せも、応用生態工学会事務局 島崎あてにお願いいたします。

8 事務局より

今回のニュースレター 30 号は第 9 回大会のご案内のほか、行事の案内も盛りだくさんです。ご参照の上ぜひ各行事にご参加ください。

このほか、一昨年北陸現地ワークショップ in 富山でお世話になった黒部河川事務所から事例紹介の寄稿をいただきました。データが多くはなく、学会誌の論文や事例研究には投稿しにくいとのことでしたが、このような紹介記事もお待ちしています。

また、本年の海外学会派遣の応募は 1 名でした。交流委員会で検討の上、派遣者および助成金額を決定の上、ご連絡します。



今回の意味無い 1 枚は、6 月 24 日まで我が家のベランダのサンショウに下宿していた（何時からかは不明）アゲハの羽化直後の写真です。4 齢幼虫で発見して以降、毎日楽しませてもらいました。（島崎）

[2005 年 7 月 15 日現在会員数]

正（学生）会員	1,200 名
賛助会員	53 法人（81 口）

ニュースレター No. 29 正誤表

誤	正
2 ページ 3 理事会報告 中の出席者 出席：廣瀬、玉井、谷田、(阿部)、井上、大矢、桜井、佐藤、鹿野、島谷、(竹門)、福岡、三島、(森下)、(矢原) 委任状・意見提出による出席：小倉、池淵	出席：廣瀬、玉井、谷田、大矢、桜井、佐藤、鹿野、島谷、竹門、三島、森下 委任状・意見提出による出席：小倉、阿部、池淵、井上、福岡、松田
5 ページ 6 刊行規程・投稿規程改訂 中 3 行目 改訂の内容は、報文種類に「 <u>話題</u> 」を加えることで・・・	改訂の内容は、報文種類に「 <u>トピックス</u> 」を加えることで・・・

2005.7.20 1750